

機関番号：17201

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330129

研究課題名（和文）

緩和ケアにおける「生」重視のソーシャルワーカーの支援機能に関する実証的研究

研究課題名（英文）

An Empirical Research on Opportunities to the Delivery of Person's Live-Oriented Support/Care by Frontline Social Workers at Palliative Care Unit

研究代表者：

北川慶子（KITAGAWA KEIKO）

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：00128977

研究成果の概要（和文）：

本研究の所期の目的は生と死を自己決定する際に様々な問題を解決しなければならないがその時期がすでに来ているという認識から始まり一応の結論を導き出そうとしている。内外の文献研究およびインタビュー調査などを行いながら、研究途上で、様々な新たな課題を発見しえた。それは我々がこの研究に着手できたからに他ならない重要な課題であった。

緩和ケアユニットは人々の自己実現の結実の場となるべきであり、最終的な決断の場でもある。そこが、人が最後の瞬間まで生きることを重視する場であるならば、その場は最も安全でなければならない。緩和ケアユニットは、人にとって快適であるかそうでないかという議論の前に、安全性が問われなければならない。我々は、本研究の最終年は、緩和ケアユニットの安全性を新たな課題として取り上げた。職員や家族は日常の世話を重視するための安全面に気を使うところまでは目が向けられていない事実をとらえることができた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is how to manage the life and death by ourselves. We reviewed many f specialized books and conducted interview research in developing our study, have found new knowledge and a variety of new challenges. On the way of researching we met the encounter with the new idea, knowledge and social issues we embarked on this study as a good opportunity.

This study is devoted to fundamental issues of life and death for humans. Palliative care unit should be a place for people's self-realization fruition. There are lots of role with social worker supports the patient's live at palliative care unit however, it cannot be said that the social worker has enough skills to work with a palliative care unit. We considered that social worker must have professional skills as the spiritual care support and also life management support to patients.

On the other hand, social workers focused on the person's last stage of the live there, they must analyze the facilities as the safest place. Palliative care unit must be questioned, prior to the safe place whether comfortable for humans. We tried to research that safety issue at palliative care unit on final year of this study. From our research result, staff and patient's family could not grasp the fact that important to worry about the safety of the facility in order to focus on daily care.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	2,500,000	750,000	3,250,000
平成20年度	2,000,000	600,000	2,600,000
平成21年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成22年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総計	6,800,000	2,040,000	8,840,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学（3802）

キーワード：緩和ケア、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカー、生前契約

1. 研究開始当初の背景

生と死に関する論議が一般化する中で、死をどのようにとらえ、どのように生きどのように死んでいくか、その選択考えることの必要性が生じてきているのが現代社会であるのとらえられるというところが本研究開始の背景である。

2. 研究の目的

本研究では、緩和ケアにおけるソーシャルワークに関する国内外の先行研究レビューを行い、緩和ケアソーシャルワークの今日的課題を整理した上で、緩和ケア施設におけるソーシャルワーカーの支援機能に関する質的研究である。これまでの研究蓄積により、「生きる」こと、生活を重視した緩和ケアにおいて死後の準備としての生前契約の可能性および生きる施設としての安全性について探ることを本研究の課題とした。

3. 研究の方法

死の選択場所としての医療施設でのソーシャルワーカーによるマネジメントが必要だと考えられるが、果たしてそうあるためにはソーシャルワーカーはどのような技術と方法論を備えておくべきかを捉えるために多くの内外の文献研究を実施した。また、緩和ケアでの生きることを選択は、死の選択でもあるために死後の葬送の生前契約について積極的に受け入れるための考察を行った。また、施設そのものの安全性についても調査データを参考にその分析を行った。

4. 研究成果

概ね本研究の所期の目的は達成の方向にあるが、しかし研究途上で様々な新たな課題を発見しえたのはさらに本研究に着手したからに他ならない。それは、特に人間にとっての根源的な課題である生と死をテーマにした本研究では、緩和ケアが自己実現の結実の場となるような生を重視する場であれば

その場が快適か否かということの前提となる安全性が問われることが本研究による大きな課題として現出したことであった。本研究の最終年度は、施設そのものの安全性へも視点を広げることにより研究の充実を図った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 63 件)

①滝口真・兼信憲吾・古賀俊彦, 「ソーシャルワークの教育機能における価値・倫理観についての一考察—生活相談員による現任教員の事例を通して—」, キリスト教社会福祉学研究, 第 42 号, 日本キリスト教社会福祉学会, 125-134. (2010 年) 査読有

②長千春, 倉田康路, 滝口真, 岡部由紀夫, 「在宅における高齢者虐待の実情と防止に向けた対応策について」, 九州社会福祉学第 6 号, 日本社会福祉学会九州部会, (2010 年) 査読有

③倉田康路, 滝口真, 岡部由紀夫, 永島稔子, 長千春, 「介護保険施設・事業所における身体拘束の実態と廃止にむけての取り組み—『高齢者虐待防止ネットワークさが』によるアンケート調査から—」, 日本看護福祉学会誌, 第 15 巻 2 号, 日本看護福祉学会, 111-123, (2010 年) 査読有.

④岡部由紀夫, 倉田康路, 滝口真, 永島稔子, 長千春, 「介護支援専門員が持つ高齢者虐待に対する意識と防止に向けての課題—『高齢者虐待防止ネットワークさが』によるアンケート調査から—」, 日本看護福祉学会誌, 第 15 巻 2 号, 日本看護福祉学会, 43-53, (2010 年) 査読有.

⑤井田圭亮, 倉田康路, 「高齢者福祉サービスにおける事故予防対策に関する一考察」, 西九州大学健康福祉学部紀要, 第40号, 西九州大学, 27-36, (2010年). 査読無

⑥宍戸明美「ソーシャルワークの普遍性と専門性 —人材養成教育の動向からソーシャルワーカーの機能とその専門職性を探る—」名古屋学院大学論集 社会科学篇 第47巻 第1号 (2010年) 査読無

⑦北川慶子, 橋本芳, 寺町清志「高齢期の自立生活に組み込む葬送の生前契約」佐賀大学文化教育学部研究論文集第13集第2号. (2009年) 査読無

⑧宍戸明美「ソーシャルワークにおける「社会的排除」の課題」名古屋学院大学論集 社会科学篇 第45巻 第4号 (2009年)

⑨北川慶子, 橋本芳「台湾都市部における葬儀風習と葬儀の生前契約の有用性の検討」佐賀大学文化教育学部論文集第14集第1号 (2009年) 査読無

⑩橋本芳, 北川慶子, 武田淳「高齢期の自己実現と生前契約—」民族衛生第75巻第4号; 131-142 (2009年) 査読有

⑪橋本芳, 北川慶子, 武田淳「生前契約の必要性に関する世代間格差」東洋大学九州社会福祉学第1巻 (2009年) 査読有

⑫兼信憲吾, 滝口真, 花島正晃, 「通所介護事業所における現任教育とケアワーカーの能力に関する一考察—職種別に実施した意識調査の比較から—」, 九州社会福祉研究, 第34号, 西九州大学, 49-68. (2009年) 査読無.

⑬花島正晃, 滝口真, 兼信憲吾, 「社会福祉士養成における相談援助実習についての一考察—専修学校教育を中心として—」, 九州社会福祉研究, 第34号, 西九州大学, 83-99. (2009年) 査読無.

⑭北川慶子「高齢期の生活変化と自立生活のあり方-葬送の生前契約研究から-」『文化における老い』輔仁大学. 269-280 (2008年) 依頼論文

⑮宍戸明美「福祉サービス化」における「社会起業」台頭の意味 —新たなソーシャルワーク実践としての可能性をさぐる— 名古屋学院大学論集 社会科学編 44-4 (2008年) 査読無

⑯北川慶子, 橋本芳, 武田淳「人口高齢化が進行した地域の女性と生前契約の必要性に関する研究」九州地区国立大学間連携リポジトリ部会研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集— Vol.2 no.1., 2008年, 査読有

⑰北川慶子, 張模韓「死前契約に関する研究」『日本問題研究』明知大学校日本問題研究所 (韓国) 依頼論文 21-33 (2007年) 査読無

⑱滝口真, 「ソーシャルワークにおけるキリスト教福祉の意義について—聖書に基づく人間観とスピリチュアリティの視点より—」, 日本看護福祉学会誌, 第13巻1号, 日本看護福祉学会, 33-43, (2007年) 査読有.

⑲北川慶子「高齢期と葬送の生前契約」佐賀大学文化教育学部研究論文集第11集第2号. 査読無. (2007年)

⑳倉田康路, 「社会福祉における『計画化』の視点と展開 —社会福祉法人・社会福祉施設運営上の側面から—」, 九州社会福祉研究 32号, 西九州大学社会福祉学科, 1-20, (2007年). 査読無

21 倉田康路, 「サービス計画に基づくサービス提供の実現化 —高齢者福祉施設を対象とした事例から—」, 社会福祉士 14号, 日本社会福祉士会 142-148, (2007年) 査読有.

22 倉田康路, 「サービス計画実現にむけての実践化 —高齢者福祉施設の場合—」, 日本看護福祉学会誌第12巻2号, 日本看護福祉学会 13-24, (2007年) 査読有.

〔学会発表〕 (計23件)

①滝口真「社会福祉士養成における相談援助実習に関する一考察—社会福祉士の養成課程と改正カリキュラムの視点より—」 (共同), 日本キリスト教社会福祉学会第51回大会 (同志社大学), 2010年6月25~26日

②原陽子, 滝口真, 「家族における絵本の読み聞かせに関する一考察—佐賀市の場合—」 日本社会福祉学会九州部会第50回研究大会, (於: 沖縄大学) (2009年12月19~20日)

③兼信憲吾, 滝口真, 花島正晃「通所介護事業所における現任教育に関する一考察 (1) —ケアワーカーと指導者の意識比較から—」 日本社会福祉学会九州部会第50回研究大会, (沖縄大学) (2009年12月19~20日).

④Keiko Kitagawa, Hideki Miyamoto, Coping

with the Natural Disaster Impact for the Facilities in Japan, 62nd Annual Scientific Meeting, Gerontological Society of America (proceeding) 2009.11.18～22, Atlanta

⑤平塚良子, 黒木邦弘, 滝口真, 橋本美枝子, 窄山太「認知症高齢者の交差分析による量的・質的評価研究(1)」日本社会福祉学会第57回全国大会, (法政大学) (2009年10月10～11日)

⑥北川慶子他「佐賀県の施設防災に関する研究」日本看護福祉学会(大津市)2009年7月

⑦滝口真「キリスト教社会福祉の独自性と使命に関する考察(1)ーキリスト教社会福祉学会員意識調査よりー」日本キリスト教社会福祉学会第50回記念大会(ルーテル学院大学) (2009年6月26～27日)

⑧滝口真, 原陽子「ブックスタートにおける保護者の意識に関する一考察ー絵本に関する効果の視点よりー」日本社会福祉学会九州部会第49回研究大会(長崎国際大学) (2008年12月13～14日)

⑨滝口真, 兼信憲吾「社会福祉施設における現任教育に関する一考察ー現任教育を通じた人材育成を中心としてー」日本社会福祉学会九州部会第49回研究大会, (於:長崎国際大学) (2008年12月13～14日)

⑩滝口真「キリスト教社会福祉の固有性に関する一考察」日本社会福祉学会九州部会第49回研究大会, (長崎国際大学) (2008年12月13～14日).

⑪北川慶子「老いの時代を考える」国際シンポジウム「文化における老い」(台湾輔仁大学) 2008年11月1～2日

⑫滝口真「高田理論における社会福祉内発的発展論における考察ーキリスト教社会福祉の価値と思想の視点よりー」日本福祉図書文献学会第11回全国大会, (長崎ウエスレヤン大学). (2008年10月18～19日).

⑬北川慶子「高齢者の防災に関する研究-佐賀県における災害時要援護者の防災意識と地勢・地理情報からみる災害危険度-」日本社会福祉学会第56回全国大会, (岡山県立大学) 2008年10月11～12日

⑭滝口真他「ソーシャルワーク実践事例の多角的分析による固有性の可視化と存在価値の実証研究(6)」日本社会福祉学会第56

回全国大会, (岡山県立大学). (2008年10月11～12日).

⑮滝口真「キリスト教社会福祉の独自性に関する一考察ー日本キリスト教社会福祉学会員の意識の視点よりー」日本社会福祉実践理論学会第25回大会, (関西学院大学). (2008年6月20～22日).

⑯山田美保「ターミナルケアにおける「医療・看護・福祉」連携の課題～お互い何を求め、何ができるのか～社会福祉学の立場から」日本看護福祉学会(西九州大学) (2008年7月5日～6日)

⑰滝口真「福祉領域研修会報告書ーA-PIEプロセスを使用した個別援助プログラムの作成ー」大阪府レクリエーション協会課程認定校連絡会福祉領域研修会, 2008年3月

⑱滝口真他, 「ソーシャルワーク実践の7次元総合モデルの検証ーソーシャルワークの成立基準の検討ー」日本社会福祉学会九州部会第48回(大分大学). (2007年12月8日).

⑲滝口真「ソーシャルワーク実践事例の多角的分析による固有性の可視化と存在価値の実証研究(3)ーデータ特性の定量的分析結果を中心としてー」(共同), 日本社会福祉学会第55回全国大会(大阪市立大学), 2007年9月22日

⑳滝口真他, ソーシャルワーク実践事例の多角的分析による固有性の可視化と存在価値の実証研究(4)ーソーシャルワークの価値と視点・対象認識の相補関係を軸としてー. 日本社会福祉学会第55回全国大会, (大阪市立大学). (2007年9月22日).

21 滝口真他, 「ソーシャルワーク実践事例の多角的分析による固有性の可視化と存在価値の実証研究(3)ーデータ特性の定量的分析結果を中心としてー」. 日本社会福祉学会第55回全国大会, (大阪市立大学). (2007年9月22日)

22 滝口真「ソーシャルワークにおけるキリスト教福祉の意義ースピリチュアリティと援助観の視点ー」(単独), 日本キリスト教社会福祉学会第48回大会(西南学院大学), 2007年6月22～23日

23 滝口真, 「ソーシャルワークにおけるキリスト教福祉の意義ースピリチュアリティと援助観の視点ー」. 日本キリスト教社会福祉学会第48回大会, (西南学院大学). (2007

年6月22～23).

〔図書〕(計26件)

① 滝口真「ソーシャルワークの教育機能における価値・倫理観についての一考察—生活相談員による現任教育の事例を通して—」(共著), キリスト教社会福祉学研究, 第42号, 日本キリスト教社会福祉学会, 125-134頁, 2010年1月

② 倉田康路「高齢者福祉サービスにおける事故防止対策に関する一考察」(共著), 西九州大学・健康福祉学部紀要(第40号), 西九州大学, 2010年3月

③ 滝口真「ソーシャルワークの定義と範囲・領域・構成要素」, 相澤譲治(監修)・植戸貴子(編), 『ソーシャルワーカー教育シリーズ第1巻 ソーシャルワークの基盤と専門職』, みらい29-47(2010年)

④ 滝口真「ソーシャルワーカー教育シリーズ第1巻『ソーシャルワークの基盤と専門職』」(共著) みらい, 2010年3月

⑤ 滝口真「障害者福祉」, 井村圭壮・相澤譲治(編), 『社会福祉の理論と制度』, 勁草書房, 85-96.(2010年)

⑥ 倉田康路『QOLの向上とアクティビティサービス』, 続福祉文化シリーズII, 日本福祉文化学会, 明石書店. 154-164.(2010年)

⑦ 倉田康路「施設の地域福祉活動」(川村匡由編), 『地域福祉論(第2版)』, ミネルヴァ書房. 150-157.(2010年)

⑧ 滝口真「社会福祉士養成における相談援助実習についての一考察—専修学校教育を中心として—」(共著), 九州社会福祉研究, 第34号, 西九州大学, 83-99頁, 2009年9月

⑨ 倉田康路「地域包括ケアの推進」「介護保険制度を支えるもの」(社会福祉学習双書編集委員会編), 『老人福祉論—高齢者の支援と介護保険制度—』, 全国社会福祉協議会. 116-136, 172-186.(2009年)

⑩ 滝口真「障害者福祉」, 福永善秀(編)・杉本一義監修, 新社会福祉講座『社会福祉の発見』, あいり出版, 112-119.(2009年)

⑪ 滝口真「社会福祉相談援助演習の課題と展望」(共著), 社会福祉教育年報第29集(2008年度)(社)日本社会福祉教育学校連盟, 83-116 2009年5月

⑫ 倉田康路『サービス計画の理論と実践モデル—高齢者福祉施設での展開—』, 金芳堂. 全281(2008年)

⑬ 倉田康路「実践現場における援助方法を支える理念『人として生きることへの理念』」(浅野仁監修), 『福祉実践の未来を拓く—実践現場からの提言—』, 中央法規. 247-250.(2008年)

⑭ 滝口真「社会福祉内発的発展論における社会福祉の価値と思想—共生概念と価値の科学化から—」, 武田丈・横須賀俊司・小笠原慶彰・松岡克尚(編), 社会福祉と内発的発展—高田真治の思想から学ぶ, 関西学院大学出版会, 187-205.(2008年)

⑮ 滝口真「障害のある人の暮らしを支える人的資源」, 志村健一・岩田直子(編), シリーズ・ベーシック社会福祉第4巻『障害のある人の支援と社会福祉—障害者福祉 入門—』, ミネルヴァ書房, 117-133.(2008年)

⑯ 滝口真「ソーシャルワークにおける尊厳と倫理に関する考察—キリスト教社会福祉援助の視点より—」(共著), いずみの園30周年記念誌, 社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団 介護保険総合ケアセンター いずみの園, 18-25頁, 2008年10月

⑰ 倉田康路「各地の動向」「佐賀県佐賀市」河村裕次と共著(川村匡由編), 『市町村合併と地域福祉』, ミネルヴァ書房. 219-233.(2007年)

⑱ 倉田康路「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童福祉」「地域福祉」「社会福祉援助技術」, 川村匡由と共著, 『社会福祉概論(第2版)』, ミネルヴァ書房. 72-184, 220-246.(2007年)

⑲ 滝口真「高齢者にかかわる施設」小室豊充(編集代表)『高齢者施設用語事典』中央法規67-70(2007年)

⑳ 北川慶子「高齢者にかかわる施設」小室豊充(編集代表)『高齢者施設用語事典』中央法規48-52(2007年)

21 倉田康路「高齢者にかかわる施設」小室豊充(編集代表)『高齢者施設用語事典』中央法規44-47(2007年)

22 滝口真「社会福祉と教育学」河内昌彦, 立石宏昭(編)『社会福祉学—人間福祉とその関連領域—』学文社, 189-198(2007年)

23 滝口真「社会福祉援助活動の倫理と原則」, 井村圭壯, 谷川和昭 (編)『社会福祉援助の基本体系』勁草書房 33-45 (2007年)

24 滝口真「高齢者・障害者への心理的援助レクリエーション」石井哲夫, 三澤義一, 蘭香代子, 中島健一 (編) 新版 第3版 介護福祉士養成講座第7巻『老人・障害者の心理』, 中央法規出版, 230-240 (2007年)

25 宍戸明美「マクロからミクロのジェネラリストソーシャルワーク実践の展開」筒井書房 翻訳 第1章～第3章 (2007年)

26 滝口真「レクリエーション援助者の具体的業務」 藺田碩哉・千葉和夫他 (編), 新版 第3版 介護福祉士養成講座第6巻『レクリエーション活動援助法』中央法規出版 138-148. (2007年)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://extwww.cc.saga-u.ac.jp/~kitage/ke/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

北川慶子  
研究者番号: 00128977  
佐賀大学・文化教育学部・教授

### (2) 研究分担者

倉田 康路  
研究者番号: 30234537  
西九州大学・健康福祉学部・教授

滝口 真  
研究者番号: 20258635  
西九州大学・健康福祉学部・教授

葛井義憲  
研究者番号: 00173401  
名古屋学院大学・人間健康学部・教授

山田美保  
研究者番号: 90326992  
西九州大学・健康福祉学部・准教授

宍戸明美  
研究者番号: 60312104  
名古屋学院大学・人間健康学部・准教授

斉場 三十四  
研究者番号: 30264170  
佐賀大学・医学部・教授 (平成19年度当時)

嶋根 克己  
研究者番号: 20235633  
専修大学・人間科学部・教授

### (3) 連携研究者

( )